

パターンCによる研究授業

3日後に2回目の研究授業を行う

6月15日(水)5校時に、大内先生が3年2組で社会科の研究授業を行いました。6月20日(月)2校時には、3年3組でまた研究授業を実施しました。これは、3パターンある研究授業の実施方法の中の「パターンC」にあたります。

パターンCとは、以下の実施方法です。

研究授業を1回実施します。その結果を受け、学習指導案を修正し、違うクラスで2回目を実施します。授業を行った結果、「こうすればよかった」というものを違うクラスで実際にやってみるといことです。そのためには、クラス間の進度の差が必要となります。

3つのことを修正して2回目の研究授業を行う

大内先生は、1回目の授業から、次の点を修正して2回目の授業を行っていました。

- 1回目の授業では、課題解決の段階(展開)の最初にあった家族の形(三世代世帯、核家族世帯)を2回目の授業では、課題設定の段階(導入)でグラフを読み取る際にもってきました。三世代世帯として「ちびまる子ちゃん」を出し、核家族世帯として「クレヨンしんちゃん」を出していました。
- 2回目の授業では、課題解決の段階(展開)の最初に、教科書の資料などを見ながら自分の考えをワークシートにまとめる時間をとりました。
- 本時のまとめを、2回目の授業では、1回目の授業よりもシンプルにし、生徒の言葉でまとめやすいようにしました。

3つの手だてはどうだったのか

大内先生の授業では、3つの研究の手だてが有効に働いていました。

(1) 学習課題の共書きと親密度の低い言葉

3年2組でも3年3組でも、共書きの先に行く、一段階上の「聴写」を行っていました。生徒は全員、大内先生が言う学習課題を素早く書いていました。また、少子高齢化に関する基本的な用語を既習事項を確認しながら取り上げていました。

(2) 自力解決

2回目の授業では、課題解決の段階(展開)において、自分なりの考えを書く時間が3分、また違う発問に対して、自分の言葉でまとめる時間が5分、合わせて2回、計8分間の書く時間、すなわち自分で考える時間が確保されていました。

(3) 振り返り

わかったこととわからなかったことを学習記録票に書いていました。この学習記録票には、毎時間の振り返りが積み上がっています。

大内先生にインタビューしました

Q:「聴写」はいつ頃から始めたのですか。

A:4月の最初から4クラスともに始めました。

Q:やってみてどうですか。

A:学習課題の把握にかかる時間がものすごく短くなりました。生徒の集中度が違います。

Q:今回、パターンCで研究授業をやってみてどうでしたか。

A:1回目の授業で、先生方からアドバイスをいただけたので、それを2回目の授業に生かすことができました。自分では気づかないところがたくさんあったので、ありがたかったです。より授業を練り上げることができました。